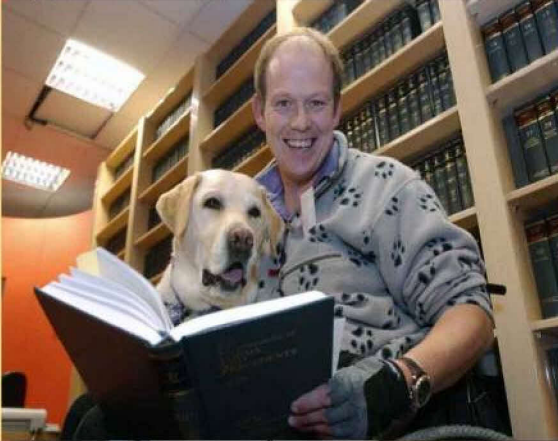


International Conference of Assistance Dog Partners

# 国際補助犬パートナーズ会議 ユニバーサルシティ松本

in



「共に  
生きること」

2004年10月11日(月・祝日)～13日(水)

まつもと市民芸術館:長野県松本市深志3-10-1

このパンフレットの企画、デザイン、編集 by (福)日本聴導犬協会

住友生命は、  
さまざまな活動を通じ  
豊かな社会づくりに  
貢献できるように  
努めていきます。

## ■スミセイ・ヒューマニー活動

全国の支社および本社で地域社会への貢献を目指し、社会貢献や文化・教育の振興など多岐にわたる活動を展開しています。

\*「ヒューマニー」とは「人間的で温かみにあふれ(Human)、社会との調和を図る(Harmony)企業でありたい」との気持ちを込めた造語です。

## ■痴呆ケア分野への取組み

介護の中でも今後とりわけ問題になってくる「痴呆ケア」問題に対し、「ホームページ」「団体支援」などを通じて、啓発・普及活動を実施しています。平成16年10月国際アルツハイマー病協会国際会議（京都）を応援！

\*<http://www.chihoucare.com>

## ■アシスタントドッグ（身体障害者補助犬）の育成支援

身体に何らかの障害を持つ人の生活を手助けする「アシスタントドッグ（盲導犬・介助犬・聴導犬）」の育成・普及を支援しています。（アシスタントドッグは住友生命での呼称です。）

\*アシスタントドッグHP <http://www.assistant-dog.com>



アシスタントドッグの育成を支援します。

社会福祉増進の一翼をになう

## ■住友生命社会福祉事業団

心身の健康増進啓発を推進する

## ■住友生命健康財団

究極の響きをお届けするクラシック専用の

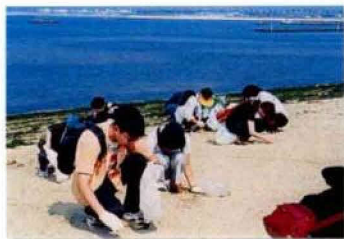
## ■いずみホール

全国を名曲でつなぐ

## ■全国縦断チャリティコンサート

こどもたちの夢を育む

## ■こども絵画コンクール



海岸清掃活動（ビーチクリーンアップ）



いずみホール

住友生命保険相互会社 本 社 〒540-8512 大阪市中央区城見1-4-35 T E L 06-6937-1435(大代表)  
東京本社 〒104-8430 東京都中央区築地7-18-24 T E L 03-5550-1100(大代表)  
<ホームページ> <http://www.sumitomolife.co.jp>

もっと、もっと、やさしい日本、  
生きる環境を創るために

Towards  
A More Considerate Japan



ADI ロゴマーク

障害をもっている方も  
障害をもっていない方であろうと。  
補助犬と暮らしている方も、  
補助犬を選ばれなかった方も。  
私たちは同じ時代、  
同じ時間を共有しています。

People with special needs and people without,  
people who choose to live with assistance dogs  
and people who do not:  
we are all living in the same age  
and sharing the same time.

一緒に呼吸し、  
お互いの尊厳を保ちながら  
生きていくために。

We breathe the same air  
and must respect each other,  
in order to continue living happily together.

この会議は、  
自由に話し合い、  
率直な意見を交わすことによって、  
お互いを理解しあう場所です。

This conference is a place for free speaking  
and the frank exchange of opinions  
to reach deeper understanding  
between people.

この会議に参加された方々が、  
地球上の離れた場所であっても、  
今後も協働できることが、  
唯一の共に生きる術と、信じています。

The participants of this conference  
may have come from different parts of the world,  
but we believe that we can work together  
to find ways of living together.

# 国際補助犬パートナーズ会議inユニバーサルシティ松本

- **主 催** :「国際補助犬パートナーズ会議 in ユニバーサルシティ松本」  
実行委員会

**構成団体**：松本市民、長野県ハーネスの会、松本市障害者自立支援センター、松本市聴覚障害者福祉協会、松本商工会議所、松本青年会議所、松本商店街連盟、松本市内旅館組合連合会、松本旅料飲食団体協議会、日本司厨士会松本支部、日本補助犬研究所、全日本補助犬パートナーの会&全日本補助犬育成の会、(福)日本聴導犬協会

- **後 援** :厚生労働省、長野県、松本市、DPI 日本会議(障害者インターナショナル)  
(財)日本障害者リハビリテーション協会、(社)全国脊髄損傷者連合会、独立行政法人福祉・医療機構、(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会、全日本盲導犬使用者の会、全国盲導犬施設連合会、(財)人権教育啓発推進センター、(社)日本医師会、(社)日本青年会議所、(社)日本獣医師会、(社)日本動物病院福祉協会、(福)兵庫県社会福祉事業団兵庫県立総合リハビリテーションセンター、(社)聴力障害者情報文化センター、(社)長野県聴覚障害者協会、長野県視覚障害者福祉協会、(社)長野県医師会、(社)長野県獣医師会、(社)長野県商工会議所連合会、長野県身体障害者福祉センター、アシスタント・ドッグ育成普及委員会、(特)日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ、(特)Knots、(特)日本アシスタンス・ドッグ支援協会、日本愛犬家協会、長野県聴覚障害者ライブラリー、長野県障害者リハビリテーションセンター、松本市教育委員会、(社)松本青年会議所 松本市身体障害者自立支援センター、松本市聴覚障害者福祉協会 長野県動物愛護センター・ハローアニマル、SBC 信越放送、NBS 長野放送、TSB テレビ信州、ABN 長野朝日放送、NHK 長野放送局、福祉新聞社、読売新聞社、朝日新聞長野総局、毎日新聞松本支局、信濃毎日新聞社、日本経済新聞社、市民タイムス、松本平タウン情報、FM長野 (敬称略、順不同)

- **協 力** :松本警察署、松本市交通安全協会、松本電気鉄道株式会社、他

～ 国際補助犬パートナーズ会議に、ご協賛いただいた皆様 ～

松本電気鉄道(株)

千趣会ゼネラルサービス(株)

住友生命保険相互会社

住友商事(株)

グランド・デュークス(株)

セイコーエプソン(株)

日本オフィスシステム(株)

(株)小椋

伊那ロータリークラブ & 伊那中央ロータリークラブ

岡野薬品(株)

(株)資生堂

キッセイ薬品工業(株)岐阜営業所

タカノ(株)

伊那バス(株)

ペイフォワード・山崎恭子

中川博司

日本司厨士会松本支部『松本ぼんぼんチャリティガーデン』

長野県ハーネスの会・丸山訓代

児玉真弓

新経営研究会

宮下歯科医院・宮下堯人

松下歯科医院・松下正博

三崎真由美

デビフペット(株)

飯田歯科医院

あけぼの歯科医院・小木曾義典

鵜飼昭二

藤沢薬品工業(株)

(株)八十二銀行

増田千江子

鈴木実

池上康子

前林美津子

高谷順子

石川犬猫病院・石川一成



ホテル ブエナビスタ

日本司厨士会松本支部

国際ゾンタ松本ゾンタクラブ

鈴木峯子

国際ソロプチミスト松本

松本ロータリークラブ

松本東ロータリークラブ

松本南ロータリークラブ

松本西南ロータリークラブ

松本空港ロータリークラブ

松本城ロータリークラブ

増田写真機店

(株)ファインライフアシスト

匿名ご希望の皆様

(福)日本聴導犬協会

長野サマライズ・センター

(敬称略、お申込順)

● 物品提供 ●

(株)ナガノマト

大塚製薬(株)

伊那食品工業(株)

日本ヒルズコルゲート(株)

デビフペット(株)

(株)プランシユール・ジャパン

千趣会ゼネラルサービス(株)

(有)ムッター・ベル



## 歓迎のごあいさつ



信州・長野県知事 田中 康夫

日本列島の背骨に位置し、数多<sup>あまた</sup>の水源を擁する信州において、国際補助犬パートナーズ会議 in ユニバーサル・シティ松本が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、全国はもとより、世界各国からお集まりいただきました皆様に、長野県民を代表して心から歓迎を申し上げます。

一人ひとりの相貌<sup>かお</sup>が見え、体温を感じることでできる“ふるさと”であり続けたいと願う信州では、向上心あふれる皆さんが、その場所でしか味わい得ない唯一無二なる魅力を育むためにも、誇りある自律のための道を歩みはじめています。

それは尊い営みです。何故ならば、今を生きる私たちは、未来に暮らすであろう、未だ見ぬ人々のためにこそ、数字には換算できない真の豊かさを、育てていかなければならないからです。

残念ながら、今の日本においては、福祉行政の名の下に行われている事業でさえも、ハード重視の箱物主義から逃れられていないのが実情です。福祉先進国であるスウェーデンのすべての車道や歩道に段差がないかといえ、そんなことはありません。むしろ、その点だけを捉えれば、日本の方がはるかに先進国であったりします。

でも、大切なことは、障害のある方が、出たいときに出かけていけるサポート体制の充実や、街でもそれをさりげなく手伝う見知らぬ人がいたりする、ソフト面の充実なのです。私が知事就任直後に、信州・宮田村で聴導犬の育成をされている、日本聴導犬協会の皆さまの熱意溢れる取り組みに感銘を受け、全国に先駆けて聴導犬の給付事業を始めたのもその一環です。

今後とも、真の意味でゆたかな、脱・物質主義の社会を実現するために、従来の中央集権的な政策から、その地域を創っていく人間的な絆である「コモンズ」に軸足を置いた政策の流れへと転換し、これまでややもすれば軽んじられ、損なわれてきた地域の「大切なもの」を自分たちの手に取り戻し、守り育てていくために、奮励努力して参ります。そして、悲しみや憤りを喜びに変える社会を作って行きたいと思えます。

今回の会議も又、人が人を支え、人が人に支えられることの喜びを、改めて実感し合う場となりますように。

# **Welcome to Shinshu**

**Yasuo Tanaka – Nagano Prefecture Governor**

On behalf of the people of Nagano prefecture, I would like to warmly welcome everyone to Shinshu, here on the backbone of Japan, with its abundance of fresh flowing water. As well as people from all over Japan, I'd also like to welcome participants from around the world to the International Conference of Assistance Dog Partners in Universal City Matsumoto.

I believe that Shinshu is a place of friendly, warm communities with unique charm, where progressive people work for a better future as, with great pride, they take their first steps along the road to independence. This is a wonderful thing, because those of us living today must nurture for those in the future a quality of life that is rich, not simply as measured by numbers, but rich in a true sense.

Unfortunately, until now, welfare policy in Japan has mostly been concerned with the hardware. Pork-barrel politicians have been more interested in awarding building contracts for white elephants, rather than in listening to the needs of people. Sweden is widely respected for its advanced welfare state, but it did not get this reputation by making its roads and pavements all barrier-free. In terms of access to its public buildings, Japan is a developed country; however, what is really important is whether disabled people are free to go out of their homes when they want to. To be able to do this, disabled people need support, and the confidence that if they need help when they are about town, friendly strangers will be there to help them. It is not the hardware, but the software that we need to develop to make Japan into an advanced welfare state.

Soon after I became governor, I was greatly impressed by the overflowing enthusiasm of everyone at Japan Hearing Dogs for Deaf People, who train hearing dogs in Miyata village in Shinshu. I am proud to say that Nagano was one of the first prefectures in Japan to begin funding such work.

To reach a truly high quality of life in a society that has risen above materialism, we must go beyond the grand schemes of centralized government policy and concentrate on the bonds between people. We have been neglecting the important things in life, and now we must do our best to protect and nurture the human side of welfare for a bright future. Then the anger will turn to happiness and the frustration will turn to satisfaction.

I hope that at this conference we will once again get a real feeling of the joy of people helping one another, and of people being helped by one another.

## 「国際補助犬パートナーズ会議 in ユニバーサルシティ松本」の 開催に寄せて



松本市長 菅谷 昭

「国際補助犬パートナーズ会議 in ユニバーサルシティ松本」の開催おめでとうございます。

日本ではじめて開催されるこの会議の成功に向け、準備をすすめてこられた日本聴導犬協会をはじめとする実行委員会の皆様に心から敬意を表するとともに、この会議が海外の方もお招きして松本市で開催されることをたいへんうれしく思います。

さて、現在の障害者福祉は「ノーマライゼーション社会、共生社会の実現」が大きな目標となっており、これまでの行政主体の措置制度から、障害のある方の主体性を大切にした福祉サービスの契約制度「支援費制度」が始まるなど、理念の現実化に向け構造的な改革が進められています。

また、昨年10月には、身体障害者補助犬法が完全施行され、公共施設、公共交通機関はもとより、個人店舗からデパート、宿泊施設、映画館やレジャー施設など、すべての民間施設でも補助犬の受け入れが義務づけられました。

そんな中、松本市では、「松本市障害者福祉長期行動計画」を見直し、すべての市民の皆さんが地域の中で安心して生活できる「ともに生きる」福祉のまちづくりをめざして、皆さんのご意見、提言をいただきながら、バリアフリー化など施策を展開しています。

現在、補助犬として松本市内には10頭の盲導犬が活躍しており、これは県内の市町村の中では一番多い数で、その分、市民のみなさんの盲導犬に接する機会も多く、補助犬に対する理解もある程度進んでいるものと思います。

この会議の開催をきっかけとして、今後、盲導犬のみならず、聴導犬や介助犬の活躍の場が広がるとともに、身体障害者補助犬に対する理解がさらに深まり、障害者が安心してくらするまちづくりにつながっていくことを期待するものです。

終わりに、「国際補助犬パートナーズ会議 in ユニバーサルシティ松本」の成功と、関係団体のますますのご発展と皆様のご健勝を祈念申し上げて、あいさついたします。



## **International Conference of Assistance Dog Partners in Universal City Matsumoto**

**Akira Sugeno** – Mayor of Matsumoto City.

Congratulations on this, the opening of the first International Conference of Assistance Dog Partners to be held in Japan.

I'd like to thank the committee members of the International Conference of Assistance Dog Partners and Japan Hearing Dogs for Deaf People for their hard work in making this possible, and welcome all the people who have come from around the world to participate. I am honored that this conference is being held here in Matsumoto, and I wish it every success.

Today, welfare policy has begun to focus on normalization and making a society that cares for all. Instead of concentrating on facilities, structural reforms are being made to establish a system that supports people with disabilities, so that they can function fully and independently within society. Last October, as part of these reforms, legislation came into effect so that assistance dogs cannot be refused entry to public transportation, hotels, theatres, leisure centers, private shops or department stores, or any other facilities open to the public.

Here in Matsumoto, the city's long-term action plan for the welfare of disabled people has recently been reviewed so that all our citizens can live together in safety and comfort, in a city which listens to the ideas and suggestions of its people, and takes measures to build a real universal society.

This conference is a great opportunity for us to reach a deeper understanding of the issues, not only of guide dogs, but also hearing dogs and service dogs, as we look forward to their roles broadening and reaching their full potential in making a society open to all.

Finally, I pray for the success of the International Conference of Assistance Dog Partners in Universal City Matsumoto and all the groups and organizations involved, and offer my best wishes for your continued good health and happiness.

## 御挨拶と連帯のことば

— 「われら自身の声 (Voice of our own)」を！ —



DPI 日本会議 前議長／常任委員 山田昭義

### ■ はじめに

来賓の皆様、会場の皆様、こんにちは。御紹介授かりました DPI (障害者インターナショナル) 日本会議の山田です。このようなご盛会になりましたことを心よりお祝い申し上げ、この会議にお招きいただき大変光栄に思います。また、この美しい文化都市松本に来ることができましたこと、大変うれしく思います。

さて、私は、先ほども申し上げたとおり、DPI (障害者インターナショナル) 日本会議という団体の常任委員つまり理事をしておりますが、今年の6月までの7年間、議長をしておりました。この国際会議を主催されている実行委員会の構成団体の中で、懇意にさせていただいている有馬もとさんが中心メンバーのお一人として活動している「全日本補助犬パートナーの会&全日本補助犬育成の会と」が DPI の正会員の団体ということで、ともに活動してきました。ここで DPI 日本会議やその親団体となる DPI の紹介をさせていただきたいと思えます。DPI を紹介させていただくことで、この会議に対する期待や意義が一層はっきりするのではないかと思うからです。

### ■ DPI—障害当事者の結集軸

DPI は 1981 年の「国際障害者年」に結成されました。それまで障害者は、とすれば医療の専門家などから治療や矯正の対象として見られがちで、社会からも普通の市民の扱いをうけませんでした。そうした状況に対して、身体・精神・知的という全ての障害種別の枠をこえた草の根障害者の結集軸をつくろう、障害者のことは自らが声をあげて障害者自身が自己決定しよう、障害者が哀れみの対象ではなく権利の主体であることを社会に訴えよう、「われら自身の声」をあげよう、ということで、障害当事者がシンガポールに集まってできたのが DPI = 障害者インターナショナルです。この時には、60 カ国以上から参加しましたが、日本からは後に郵政大臣をつとめられた八代英太さんをはじめ、スウェーデンの社会大臣や「国連障害者の機会均等化に関する基準規則」の特別報告者をつとめたベクト・リンクビスト氏など、世界中の障害者運動のリーダーが集まり、大変な熱気に包まれました。

現在、DPI の国内組織のある国の数は 120 カ国以上になります。本部はカナダにおかれ、議長はフィリピンの元ジャーナリストであるビーナス・イラガンという女性です。そして、アジア太平洋、アフリカ、ヨーロッパ、北米カリブ、ラテンアメリカの世界 5 つのブロックに分かれて活動しています。国連の経済社会理事会や国際労働機関 (WHO) などの諮問資格を得て、主要な国際機関で活動すると同時に、各国の DPI の間で様々な交流を行なっています。特にアジア太平洋ブロックでは、とても盛んに交流・活動をしています。

世界の DPI の最近の活動で特に言及すべきことといえば「障害者の権利条約」策定の活動が挙げられます。今、国連に特別委員会が設けられ、条約を作る様々な交渉や会議が年に 2・3 回もたれていますが、DPI では他の主要な国際障害者団体とともに、委員会でのロビー活動を行う一方で、交

# **Greetings and Speech**

## **“Voice of our own”**

**Akiyoshi Yamada, Former chairman, Permanent committee member  
Japan National Assembly of Disabled Peoples 'International (DPI-Japan)**

Greetings to our special guests and everyone here today. As introduced earlier, my name is Akiyoshi Yamada, Japan National Assembly of Disabled Peoples 'International (DPI-Japan). It's wonderful to see the great success this organization has experienced and I'd like to express to all of you my deepest gratitude for having me as a guest. I'm very happy to have this opportunity to come to this beautiful city of Matsumoto.

Presently, I'm a permanent member of the DPI-Japan Board of Directors, however, for the past 7 years, until this past June, I was chairman of the board and had been working with Ms. Moto Arima who belongs to an organization called Japan Association of Assistance Dog Partners & Association of Assistance Dog Societies, is hosting this international conference. Today I am here to introduce the Japan National Assembly of Disabled Peoples' International to you. By explaining what DPI-Japan is, you will know what you can expect from this conference and get more meaning out of it.

DPI was organized in 1981, which was the “UN International Year of Disabled Persons”. Until this time, people with disabilities often tended to be treated as needing special medical attention or were targeted for special remedies which made it difficult for them to be treated as normal citizens. Under such conditions, people with various disabilities (physical and mental) and others concerned gathered together in Singapore from all over the world in a grassroots movement to raise their voices in a call for: Bringing people together with all varieties of disabilities. Letting disabled people make their own decisions and express their opinions. Appealing to the public that they are not to be pitied, but have rights and a voice of their own.

This conference was filled with excitement and leaders from over 60 countries were in attendance including Mr. Eita Yashiro from Japan, who later became the Minister of Posts and Telecommunications, and also Mr. Bengt Lindqvist from Sweden, who was involved in “The Standard Rules on the Equalization of Opportunities for Persons with Disabilities” as a special reporter. Currently, there are over 120 countries that have some type of organization for disabled people. Our head office is located in Canada and Ms. Venus Ilagn, a former journalist from the Philippines, is the chairman. DPI is divided into five operational regions: Asia Pacific, Africa, Europe, North America/ Caribbean, and Latin America. In addition to being very active as an international organization, having earned consulting status from organizations such as the Economic and Social Council (ECOSOC) and the International Labor Organization (ILO), we also facilitate interchange between each country's DPI especially here in the Asia Pacific region. I must also mention that recently we are putting a lot of emphasis on establishing a “Convention on Rights of the Disabled”

DPI representatives in each country continue to negotiate and have meetings with other major organizations at the United Nations several times a year. It is very important to reflect the opinions and voices of the disabled towards establishing the rights of persons with disabilities in

渉に当たる多くの国の政府代表団の中にその国の DPI のメンバーがいるということを御報告したいと思います。これは最後に残された人権条約であると言われる障害者の権利条約に、障害当事者の「われら自身の声」を反映させるという点で非常に重要なことであり、今までの人権条約を作る際には見られなかったという点で歴史的な意義を持つと言えるでしょう。

## ■ DPI 日本会議はどんな活動をしているのか

DPI 日本会議は 50 の加盟団体から構成されています。全ての障害者の「われら自身の声」をかがげ、国内活動、国際活動にそれぞれ積極的に取り組んでいます。まず、国内活動においては障害者の権利の確立に向けて脱施設や自立生活、雇用など様々な問題に取り組んでいます。その中でもとくに差別禁止法制定に向けた研究・啓発活動に力を注いでいます。現在、障害者基本法が障害施策の土台となっています。しかし、御記憶に新しいと思いますが、ある旅館で障害者の宿泊拒否事件がありましたが、この法律では何も解決されません。車いすに乗っている人が旅行したくても交通機関などにバリアフリー施設がないため、旅行できないことがあります。今の法律では何も変わりません。差別が何かということから障害当事者の意見を取り入れた法律をつくり、実際に差別を受けた障害者の救済がされるような法律が必要です。DPI 日本会議では他の団体とともに当事者の作る差別禁止法の案をつくり、日弁連などと意見を交換しながら、法制定を目指しています。

国際活動では、先ほど申し上げた国連での障害者権利条約の日本政府代表団に、DPI 日本会議の役員を送り込んでいます。もちろん障害当事者です。また、戦乱の続いたアフガニスタンに何ヶ月もかけて車椅子 400 台を送りました。

DPI 日本会議の飛躍の機会となったのが、2002 年の第 6 回 DPI 世界会議札幌大会でしょう。4 年に一度、全世界の障害者が一堂に会す DPI 世界会議が行なわれますが、「障壁からの解放、差異と権利を祝おう！」をテーマにした札幌大会では、120 の国・地域から 3000 人が参加しました。この大会の成功が今、大きな力となっています。

## ■ 真の「やさしさ」をもとめて

長々と DPI の話をさせていただきましたが、ここで申し上げたかったことは、当事者の自己決定が重要になっているということです。昨年 10 月、「身体障害者補助犬法」が施行されました。一応歓迎されるべきことではありますが、補助犬の選択や育成において、利用する当事者や団体の意見が果たしてどれだけ反映されるのか、という問題があります。この法律が障害者本人、利用者本人の権利を保障する法律でなければなりません。そのために何が必要なのか、当事者・利用者の意見を集め、運用面などの具体的施策に反映させることが必要でしょう。利用当事者が様々な選択肢の中から自由に選ぶことができる制度や選択のための情報の保障、育成団体への適切な支援などが挙げられます。社会への啓発活動もあります。これらのことは待っていては実現できません。当事者自らが声をあげていかなければ何も得られないでしょう。

この会議では「もっともっとやさしい日本を創るために」という言葉が使われています。この「やさしい」という言葉の意味は、強者が弱者に与える恩恵のことではありません。お互いの「違い」を尊重しあい、そのままの自分で地域で生きていくために必要なものを社会が保障する、これによって、全ての人が心安らぐ生活ができる、これが「やさしい」の意味ではないか、そう考えます。

最後に皆様の活動が大きく花咲くことを信じ、また、DPI も皆様と共に歩んでいくことを申し上げて挨拶と連帯の言葉とさせていただきます。

what has been called the last remaining human rights convention and would have great historical meaning in that it would be the first time to see so many participants in the process of making this new convention.

### **What kind of activities does DPI-Japan do in Japan?**

DPI-Japan is structured into 50 different affiliated groups. Each group has been working actively at both domestic and international levels with the slogan “A Voice of Our Own”. Domestically, we have been working on research and educating disabled people not to rely on institutions, to start living their own lives, to find employment and most of all, to try to help pass laws prohibiting discrimination against them. Presently, Fundamental Disability Law is the foundation of practices regarding persons with disability. This law, however, does not solve many problems. Many of you may know the case of an individual who was refused lodging in an inn during a trip because of his disability. The current laws will not make any difference to an individual in a wheel chair that wants to travel but sometimes has to give up because the public transportation system is not barrier free. What we need to do is make new laws that involve the opinions of the disabled themselves as to what they believe discrimination to be and that helps people who have been discriminated against. DPI-Japan is striving with other organizations to propose an anti-discrimination law against people with disabilities, and while exchanging opinions with Japan Federation of Bar Associations.

In terms of international activities, as I mentioned earlier, DPI-Japan executives are among the members representing the Japanese government sent to the United Nations for the Convention on the Rights of the Disabled. They are indeed people with disabilities themselves. In other activities, despite the continuing conflict, we have sent 400 wheelchairs to Afghanistan over a period of several months. The 6<sup>th</sup> DPI World Conference in Sapporo, held in 2002, brought great developments. At this international conference, people with disabilities from all over the world gather together every 4 years. The theme of the last conference in Sapporo was “Let’s celebrate our release from barriers, our differences and our rights.” 3000 people participated from over 120 countries and regions. The success of this event leads us to where we are today.

### **Searching for a True Considerate Japan**

I’ve been talking about DPI quite a lot today. Finally, what I would like to emphasize is the importance of people with disabilities making their own decisions. The Law of Assistance Dog for persons with Physical Disabilities was fully implemented last October. This should be welcome news, however the question still remains as to how the opinions of the assistance dog partners and organizations regarding the selection and training of dogs is reflected. This new law must secure the rights of people with disabilities. What we need to do in order to secure these rights is to gather opinions from users, the people with disabilities, and have these opinions reflected in concrete policies such as investment. Other examples include establishing a system guaranteeing the freedom to choose from a variety of sources, securing information to assist in making these choices

Educating society is also important. We can’t just sit and wait for all these needs to be fulfilled. Those with disabilities have to speak up otherwise nothing will happen. The words, “To create a much kinder (Considerate) Japan,” are being used as a kind of slogan for this conference. “Kind” does not mean the strong granting benefits to the weak. We believe the true meaning of kindness (Considerate) is respecting each other’s differences and the government securing necessities for life in the community. With this everyone can live in the same community in peace.

## 初の全日本補助犬パートナーの会 会議開催に対し、 世界の障害者が期待しています



国際補助犬パートナーズ協会  
(International Association of Assistance Dog Partners)  
会長 Ed Eames 博士

2004年10月10日から13日まで、長野県の松本市の支援を受けて、盲導犬、聴導犬、介助犬を伴う日本の障害者たちが、市全体でユニバーサル・デザインを遂行する松本市に集まり、補助犬と共に生活し、社会参加できる恩恵について語り合う会議を開催します。

補助犬と生活する具体的な恩恵としては、独立、可動性、安全が高まること、そして生活の質の向上などが挙げられます。

この画期的なイベントへの参加者たちは、各自の経験について意見交換を行い、公共宿泊施設へのアクセスの問題や今後の日本での補助犬普及活動について討論する予定です。

今回の会議の総合プロデューサーを務めるのは、国際アシスタンス・ドッグ協会の理事で、「全日本補助犬パートナーの会&全日本補助犬育成の会」の議長でもある有馬もとさんです。彼女の招きで、国際補助犬パートナーズ協会の役員数名が今回の会議ならびに、会議前後の活動に積極的に参加する予定です。

今年、20カ国以上に1600名以上の会員数を有する、世界で最も規模の大きな、そして、さまざまな障害をもつ補助犬パートナーの擁護団体である「国際補助犬パートナーズ協会」が、設立10周年を迎えます。「国際補助犬パートナーズ会」の会長エド・イームズ博士は、日本で同様な活動を行なう人々との意見や経験を交換できるこのすばらしい機会を心からの慶びとしています。「国際補助犬パートナーズ協会」は、1993年、世界中で補助犬の普及活動をサポートすることを、目的に設立されました。

私が、補助犬と共に暮らす同胞のみなさまに伝えたいのは、「今回、日本の障害者の方々と出会い、日本での障害者が得たアクセス法の改正を祝い、今後の活動について語り合う、この非常に重要な機会に参加できることを光栄に思っております。

今後も協力して活動を行なうことにより、日本の補助犬パートナーの方々が多くの意義ある目標を達成していくことができるものと、考えております。

私たちの目標のひとつは、障害者のアクセス権に対する社会的認識を獲得しなくてはならない」ということです。

(翻訳ボランティア:ピーシーエー生命保険株式会社)

## **World Disability Community Hails First Japanese Assistance Dog Conference**

**Dr. Ed Eames  
President**

**International Association of Assistance Dog Partners(IAADP)**

From October 10-13, 2004 disabled Japanese partnered with guide, hearing and service dogs will gather in Matsumoto to celebrate the benefits of working with canine assistants. Among these benefits are greater independence, mobility, safety and an improved quality of life. Those gathering for this pioneering event will exchange life experiences, discuss issues of access to public accommodations and look to the future of the assistance dog movement in Japan.

Moto Arima, member of the Board of Directors of Assistance Dogs International, is the general producer of this conference. Several members of the Board of the International Association of Assistance Dog Partners will be active participants in the conference, as well as pre and post-conference activities.

IAADP, the largest cross-disability consumer advocacy organization of assistance dog partners in the world with more than 1,600 members from more than 20 countries is celebrating its tenth anniversary.

Dr. Ed Eames, President of IAADP, welcomes this exciting opportunity to exchange ideas and experiences with peers in Japan. IAADP was initiated to foster the assistance dog movement throughout the world.

Dr. Eames states: "I welcome this momentous opportunity to meet with Japanese disabled persons to celebrate the passage of your new Access Law and discuss the future. By working together, Japanese partners could accomplish many worthwhile goals.

One goal is to win societal respect for the access rights of disabled people."



## 補助犬とともに幸せの青い鳥を求めて

ペット政策研究所  
代表 吉田眞澄

幸福の中身は人それぞれですが、人は皆、幸福を求めて生きています。近代国家は、その促進策として、自由、平等、独立の個人像を創造し、その個人に行動の自由を保障したのです。近代国家の一つである我が国も、憲法によって、そのことを明確に示しています。多くの人は、それだけで幸福追求の活動の条件を充たすことになりませんが、身体に障害があるため、何らかの補助を必要とするなど、もう少し条件整備をしなければならない人もいます。身体障害者補助犬に補助してもらうのも条件整備の一つです。補助を必要とする人の中には、人に補助をしてもらうよりも、その目的に沿って訓練された犬に補助をしてもらいたいと希望する人も少なくありません。自由な個人でありたい、人とは独立した個人でありたいという気持ちを強く持つ人で、犬との共同生活を希望する人の中に、そのような選択をする人が多いと思います。そのような選択をした人からすると、それは非常に重要な選択であるとともに、自由、平等、独立の個人像を創造した近代国家としても、その選択を支援する必要があります。そうでなければ、自由、平等、独立の個人像を創造した基本姿勢と矛盾が生じるからです。

ペットとしての犬が広く社会に受け入れられていた欧米では、身体障害の補助を犬が行うという方法は、比較的早くから考えられ、社会システムの中に組み入れられてきました。それに対し、我が国の場合には、補助犬を利用することに対しては、利用者の側にも、様々な誤解や戸惑いがあり、補助犬を利用したいという声は、つい最近に至るまで、必ずしも大きなものにはなりません。更に、補助犬を受け入れ手である社会の側には、それ以上に大きな誤解や戸惑いがあり、それらが障害になって、補助犬の育成・使用と受け入れに関する社会システム創りを遅らせてきました。しかし、最近になって、その状況にも変化が生じてきました。一方で、身体障害者の自立と社会参加の重要性が多くの人に理解されるとともに、ペットとしての犬の普及に伴い、犬の受け入れに対する社会の理解が高まってきたのです。身体障害者補助犬法制定の背景には、関係者の努力とともに、そのような社会状況の変化があったことも見逃してはなりません。

世界的に見ても非常に珍しい「身体障害者補助犬法」ですが、目下のところ、「補助犬」管理法と「補助犬」の利用促進法という非常に性質の違う二つの要素が綱引きをしている状態にあり、どちらの要素が強くなるか、予断を許さない状況にあります。もし、管理の側面が強くなれば、利用者にとっては、いろいろと不都合が出てくるはず。そうならないようにするためには、特に補助犬の利用者が、訓練事業者、受け入れ施設、行政との間で、運用面などに問題が生じたとき、「自分さえ我慢すれば」という態度を取らず、自分たちが道を切り開き後進のために大きな財産を創るという姿勢ではっきりと権利主張をすることが大切です。「補助犬法」は、決して利用者に対する恩恵を定めた法律ではないのです。施行三年後の見直しまでの時期が特に重要であることをしっかりと認識し、勇気を持って前進してください。幸せの青い鳥は、すぐ側にいるはず。



# Assistance Dogs and the Pursuit of Happiness

Masumi Yoshida,

President

Research Institute for Pet Policy

Different people look for happiness in different ways, but everyone looks for happiness. Modern democracies promote the ideals of liberty, equality and independence and protect the freedom of individuals' actions. Japan, which is one modern democracy, enshrines these principles in its constitution. For most people, this is enough to allow the pursuit of happiness, but for some, assistance is needed to meet these ideals. Many people with a strong desire to be free and independent choose to have a trained helper dog so they too can live up to these ideals. For such people, this is a very important decision, and for a modern democracy which espouses liberty, equality and independence, it is essential that such choices are supported. To do otherwise would go against our fundamental principles.

In the West, where dogs are widely welcomed as pets, society has been quick to adapt to their use in supporting people with special needs. In Japan, meanwhile, the use of assistance dogs has been met by all manner of misunderstanding and bewilderment, and this confusion has been a huge obstacle in building a society that welcomes the training and use of assistance dogs; however, the situation has been changing. On the one hand, many people now understand the need for the freedom and participation in society of people with special needs. On the other hand, more and more dogs are being kept as pets, and society is becoming more accepting towards them. These changes in social attitudes, and the hard work being done to bring them about, must not be overlooked when we consider the enactment of the Law of Assistance-Dog for Persons with Physical Disabilities.

This law may seem strange to people from other countries: some of it lays down regulations for the supervision of assistance dogs, while other parts of it promote their increased use. These two contradictory parts pull against each other like the two sides in a game of tug of war; if one part gets stronger, the other part will have to yield. If the regulations for the supervision of assistance dogs are too strict, it will become harder for people to use them. To stop this from happening, users and trainers of assistance dogs must not treat the difficulties they will face simply as inconveniences they have to put up with. It is essential to stake out our rights and clear a path for people in the future to follow. The Law of Assistance-Dog for Persons with Physical Disabilities does not in itself benefit users. The three year period until the law is reviewed will be critical, so take courage as you step forward in the pursuit of happiness.

## 海外の補助犬ユーザー紹介



### ● エドウィン・イームズ(写真右)

盲導犬ユーザー。世界1600人が加盟する国際補助犬パートナーズ協会会長であり創始者のひとり。カリフォルニア州立大学のひとつで助教授として勤務。

### ● トニー・イームズ(写真左)

盲導犬ユーザー。エドの奥様です。作家であり、障害をもたれる方々のためのレクチャーや擁護活動を行っている。彼女のきわだった活動により、1998年アメリカのナショナル・ホールに殿堂入りした。

### ● デボン・ウィルキンス

盲導犬ユーザー。カナダ盲導犬使用者の会副会長。ジャーナリスト。カナダ補助犬パートナーズ協会会長。同会機関紙「ハーネス」編集長



### ● ジャニス・ジャスティス

聴導犬ユーザー。カイロプラクティス博士。1997年デルタ協会からサービスドッグ賞受賞など受賞多数。聴導犬のカジュンは、シンギングドッグコンテストで優勝。「カジュン・ソング」と題された子供向けの本は全米中のこどもたちへの聴導犬普及に役立っている。

### ● ジル・エクスポジット

聴導犬ユーザー。国際補助犬パートナーズ協会理事。アメリカ最大の介助犬育成協会で訓練を受けた、聴導犬ウリアと生活。普及啓発活動で活躍中。



### ● アラン・G・パートン

英国でもっとも知名度の高い介助犬ユーザーのひとり。湾岸戦争で事故にあい、肢体障害と共に、記憶をなくす。帰国後、家族に関して記憶がないということから、離婚。しかし、家族にすすめられた介助犬との生活で記憶をとりもどし、同じ奥様と再婚。英国のベスト補助犬賞を受ける。

## 国内の補助犬ユーザー紹介



### ● 原哲夫

長野県ハーネスの会会長。  
1950年 長野県飯田市生まれ。  
30才のとき病気により失明。  
11年前から盲導犬歩行を始めて、現在のパートナーは3頭目のエリン。  
雌の黒のラブラドルで2才。  
長野県松本盲学校勤務。

### ● 池田純

1952年 北佐久郡御代田町で出生  
1977年 早稲田大学法学部在学中に発症したパーキンソン病のため失明  
1981年 日本ライトハウス行動訓練所で盲導犬イングリッドとの共同訓練  
1995年 日本ライトハウスで盲導犬ニックとの共同訓練  
長野障害者自立支援センター勤務



### ● 長岡由希子

和光大学人文学部卒業  
1999年4月～ アメリカのTop Dogでの指導を受け、  
愛犬ニッキーを介助犬として自ら育成。  
2000年7月Top Dogの認定テスト合格、同年8月帰国。  
全日本補助犬ユーザーの会&全日本補助犬育成の会副議長



### ● 岸本<sup>よしこ</sup>淑子(写真右)

聴導犬みかんユーザー。1939年大阪に生まれる。大阪女学院高等学校卒業、松坂屋ドレスメーカー女学院師範科卒業。(福)日本聴導犬協会評議員

### ● ユーザー家族: 岸本<sup>かずや</sup>宗也(写真左)

1936年台湾に生まれる。武蔵野美術大学卒業、山口長男に師事。画家、大阪府美術家協会会員、(福)日本聴導犬協会監事、全日本聴導犬ユーザーの会副会長、大阪市阿倍野区身体障害者団体協議会監事、大阪市身体障害者相談員



## □■□■ 英語通訳者紹介 ■□■□

### ● 柿沼美紀

米国 Northwestern University 卒業。筑波大学修士課程地域研究研究科修了。  
筑波大学修士課程教育研究科修了。白百合女子大学文学研究科博士課程満期退学。  
日本獣医畜産大学獣医学部獣医学科比較発達心理学教室教授  
文学博士

## 大会主旨書



### 国際補助犬パートナーズ会議 in ユニバーサルシティ松本実行委員会 総合プロデューサー:有馬もと

2003年10月補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）ユーザー、育成団体にとって、長年の願いであった「補助犬の同伴を認める」法律・身体障害者補助犬法が施行されました。

しかし、これまでに世界でも例をみない新しい法律だけに、受け入れ側である社会と、補助犬同伴を望むユーザーや育成団体の側に、とまどいがあるのはいなめない事実です。

これらの状況を踏まえ、松本市民の方々に構成される国際補助犬パートナーズ会議 in ユニバーサルシティ松本実行委員会と共に、みなさまのお力添えで社会福祉法人、厚生労働大臣認可の指定団体となれました日本聴導犬協会、「全日本補助犬パートナーの会&全日本補助犬育成の会」等の協賛の元、補助犬業界全体に対して、あたたかな理解と、ご支援をみなさまから頂戴できますことを願い、国際補助犬パートナーズ協会の会長、副会長等を、補助犬先進国であるアメリカ、カナダ、英国などからお招きし、毎年、アメリカで行なわれてきた国際補助犬パートナーズ協会総会と同様なスタイルで、今回の会議を開催するにいたりました。

当会議には、日本の補助犬ユーザーのご参加をいただきながら、補助犬の受け入れ手となる社会、補助犬を同伴するユーザー、そして補助犬育成団体が、共に考え、討議することで、今後の補助犬普及の指針を見つけていくものです。地域を問わず、補助犬業界にとって、消費者となるのは、障害をもたれる方々です。それらの消費者に、補助犬の究極の目的である満足感と幸福感を提供するために、今、訓練面で、受け入れ面で、さまざまな分野で、みんながしなくてはならないことを模索する会議です。

みなさまからのご支援を補助犬の健全な普及に頂戴できますこと、心から感謝申し上げます。

2004年10月11日

# Conference Objectives

**Moto Arima, Overall Organiser,  
International Conference of Assistance Dogs Partners  
President, Japan Hearing Dogs for Deaf People**

In October, 2003 after many years of work by partners and trainers of assistance dogs, a law came into effect that recognises the partners of guide dogs, hearing dogs and service dogs. However, it cannot be denied that this, the first law of its kind in the world, has been met by confusion between hopeful partners and trainers, and society as a whole.

In these circumstances, the people of Matsumoto city who make up the conference executive committee appreciate the help and understanding of the Japan Association of Assistance Dog Partners and Assistance Dog Societies, Japan Hearing Dogs for Deaf People and other people who work with assistance dogs, as well as other welfare organisations. This conference is modeled on the annual Conference of the International Association of Assistance Dog Partners, which is held in the US, and we are very glad to welcome the president and Board of Directors of the IAADP and other people from Canada, the US and the UK, leading countries in the use of assistance dogs.

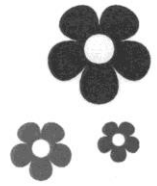
I would like to thank assistance dog partners and trainers from around Japan, and other representatives of society for coming to this conference. Let us put our heads together and discuss the best ways for promoting the use of assistance dogs. Wherever they may be, it is people with special needs who use assistance dogs, and the ultimate goal of this conference is to work together on issues of training and acceptance by society, to let them lead full and happy lives.

I would like to sincerely thank everyone for their help in promoting the widespread live with assistance dogs in our society.

<松本電気鉄道様広告入る>



ベルメゾンでおなじみ 千趣会グループの  
**千趣会メンバーズカード**は  
 やさしくてうれしいカード!



すてきな毎日を運んでくれる 信頼のカードです。

ポイントコースいろいろ、  
 カードの種類も豊富!  
 あなたにピッタリのカードは?

JCB、VISA、セゾンVISA、ジャックスJCB、  
 ポケットMASTER、マイベストミューなど、  
 あなたに合うカードを見つけて下さい。

●特典・ポイントコース例

ベルメゾンでのお買物でポイントが3倍!

どこでお買物をしてもポイントが2倍!

ベルメゾンの割引ハガキ付き!

値引きに使えるベルメゾンポイントへの移行 など...

**特典1** 入会金・年会費 無料! 2年目以降も無料!

・カードの盗難、紛失時にも24時間対応いたします。(一部、年会費が有料のカードもございます)

**特典2** 入会すると **10万円の旅行券** プレゼント

・ご入会された方の中から抽選で10名様に千趣会BeeClubで  
 ご利用いただける旅行券プレゼント

**特典3** ご利用に応じて **10万円の旅行券** プレゼント

・期間中にカードを3万円(税別)以上、またはカードローンをご利用いただいた方の中から  
 抽選で20名様に千趣会BeeClubでご利用いただける旅行券をプレゼント!

**特典4** **ベルメゾンお買い物券** プレゼント

・期間中にカードを3万円(税別)以上、またはカードローンをご利用いただいた方の中から  
 抽選で100名様に千趣会カタログ「ベルメゾン」のお買い物券1万円をプレゼント!

スペシャル  
 特典!

**タラサ志摩ホテル&リゾート**

—美しい自然を残す伊勢志摩の、至極の心と身体のリラクゼーション施設—

女性の憧れ「タラサ志摩」の室料が千趣会カードのご利用でなんと **半額** に!

通常 **11,550円** → **5,775円** に! お1人様料金 (通常期の平日・休日の場合/2名様1室・税サ込)

千趣会メンバーズカードは、収益の一部を社会貢献にあて、  
 目に見える形でお伝えしています。

人を助ける犬の中から聴導犬の育成に協力し、  
 候補犬「すやちゃん」の成長をつづる「やさしさ通信」を、  
 3ヶ月毎に発行し、ご利用明細書と一緒に送っています。



千趣会グループの

生活を応援するととてもお得な「**Belle Resort Club**」をご存知ですか?

「**ベルリゾートクラブ**」は、旅行・スポーツ・グルメ・健康管理など、  
 生活全般に役立つサービスが満載です。

ご入会されると、全270ページのガイドブックをさしあげます

**国内 約1,000ヶ所の旅館・ホテルで一般料金の約10~60%OFF**

**レンタカー 最大43%OFF**

**大手旅行会社のバックツアー 海外:最大8%OFF 国内:最大6%OFF**

**人間ドック・検診 住まいのセキュリティ・ハウスクリーニング**

**カルチャー教室・通信教育 グルメ ペット保険** (サービスの一例)などが、会員価格で!

〈ワールドワイド保障〉

会員様を万全にサポート! ベルリゾートクラブのメニューにご参加中の保障もバッチリ!  
 10日以上入院で5万円、20日以上入院で10万円お支払いいたします。

こんなにお得なメニューを、いくら利用しても年会費は **10,080円**

しかも **千趣会メンバーズカード** でお支払いの場合 **3,990円** (いずれも税込) とお得です。

●契約旅館・ホテルの一例



北海道 **富良野**  
 ●リゾートホテル  
**ナトゥールヴァルト富良野**  
 1泊朝食付  
**5,300円**~



栃木 **日光**  
 ●厳選ホテル  
**日光金谷ホテル**  
 1泊朝食付  
**8,085円**~



長野 **穂高**  
 ●リゾートホテル  
**穂高ビューホテル**  
 1泊あたり(業泊まり)  
**3,800円**~



大分 **湯布院**  
 ●厳選ホテル  
**柚富の郷 彩岳館**  
 1泊2食付  
**13,695円**~

お問い合わせ・資料請求は

**SGS** 千趣会ゼネラルサービス株式会社 下係

TEL06-6881-3031

FAX06-6881-3060

(土・日・祝を除く)  
 9:00~17:30

ホームページでもお受けしています

[www.sgs21.com](http://www.sgs21.com)



<http://www.sumitomocorp.co.jp>

**地球のこと、人のこと、大切にしています。**

地球は一つ。みんなが幸せに生きていくために、  
地球環境に配慮することは社会に対する企業責任の一つです。

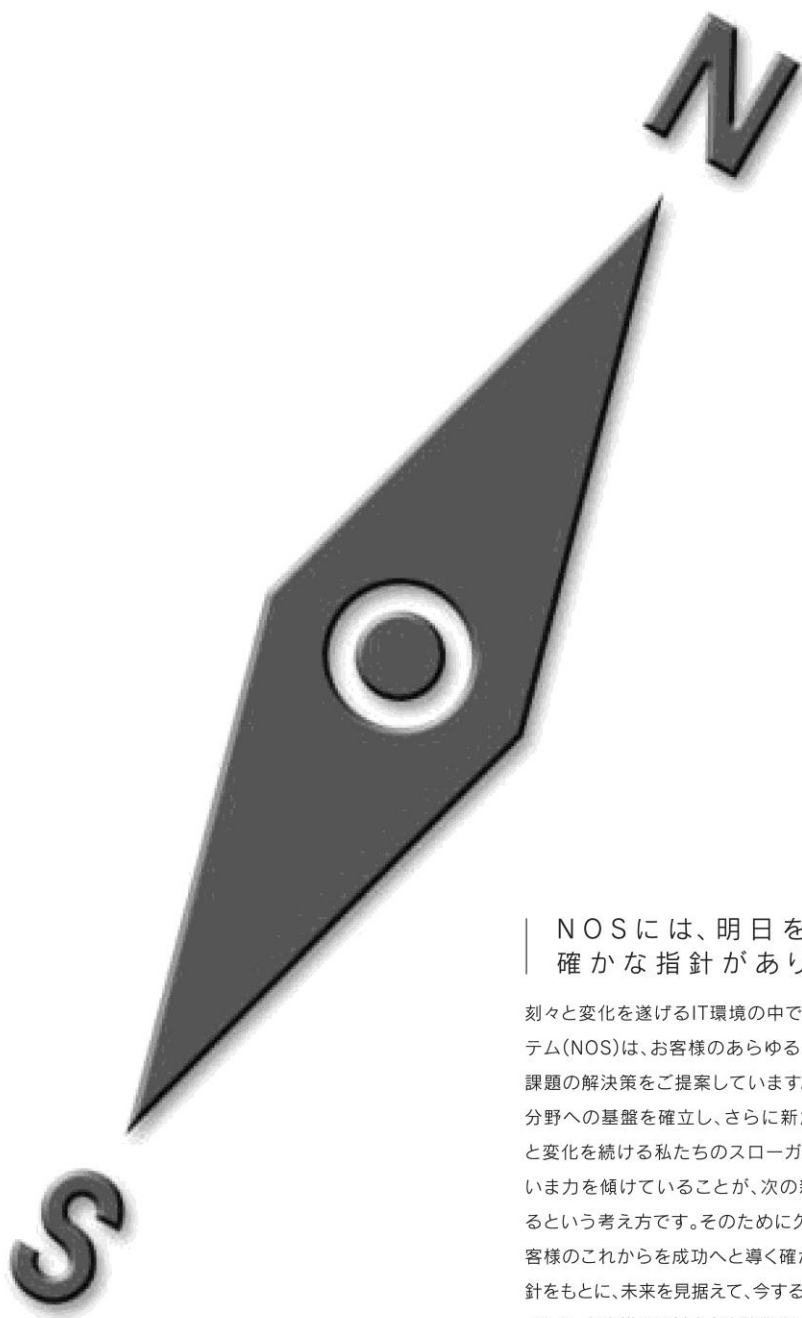
地球が好き、人が好き。

私たちは、地球に優しい企業を目指します。

**住友商事株式会社**



今を知る。未来を測る。新・創・人。



NOSには、明日を見据える  
確かな指針があります。

刻々と変化を遂げるIT環境の中で、日本オフィス・システム(NOS)は、お客様のあらゆるニーズにお応えて課題の解決策をご提案しています。先進ソリューション分野への基盤を確立し、さらに新たなステージで挑戦と変化を続ける私たちのスローガンは「新創」。これは、いま力を傾けていることが、次の新しい価値を創造するという考え方です。そのために欠かせないものは、お客様のこれからを成功へと導く確かな指針です。この指針をもとに、未来を見据えて、今すべきことを知ること。そして、お客様への対応力を強化するために、イノベーション能力を高め、次々と得意分野を増やしていくこと。新しく価値を創る私たち『新・創・人』は、それぞれがお客様のご満足を高めていく道だと信じています。

 **日本オフィス・システム株式会社**  
<http://www.nos.co.jp/>

[本社] 〒103-8512 東京都中央区日本橋箱崎町36-2 リバーサイドビル TEL:03-5649-6201 [芝事業所]  
[関西事業所] 〒541 0048 大阪府大阪市中央区瓦町2 3 10 瓦町中央ビル TEL:06 6204 1061 [仙台事業所]  
[中部事業所] 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄2-9-3 伏見第一ビル TEL:052-202-5401 [福岡事業所]

特定非営利活動（NPO）法人

<http://www.shiojiri.ne.jp/~fstep/>

# 長野サマライズ・センター

**パソコン文字情報ならお任せください!!!**



**パソコンなどのIT 機器やIT 技術を活用して、障害者・高齢者などの情報弱者の社会参加をサポートすることで、誰もが暮らしやすいまちづくりを目指しております。**

パソコン要約筆記（文字）通訳活動 ・ ・ 聴覚障害をお持ちの皆様とともに  
パソコン要約筆記通訳者の育成・指導  
パソコン要約筆記講習会の企画・運営 ◎実績の詳細は、HPをご覧ください  
聴覚障害理解を求める啓発事業  
IT 技術やIT 機器の福祉の分野への活用のための情報収集と提供  
あらたな福祉機器開発のための情報提供・助言とモニター派遣  
テープ起こし作業 ・ ・ ・ 作業の速さが自慢です。  
映画、ビデオ、テレビ字幕作成  
☆ その他、文書作成に関することなら何でもご相談ください。

〒399-0701 塩尻市広丘吉田 505-8

0263-86-1619 (FAX 兼) 携帯090-1708-1484

E-Mail [fstep@po.shiojiri.ne.jp](mailto:fstep@po.shiojiri.ne.jp)

<http://www.shiojiri.ne.jp/~fstep/>

NPO法人 パソコン要約筆記  
長野サマライズセンター



視覚に障がいのある方にも、  
化粧の楽しさを  
味わっていただきたい。

これは同じ障がいをもつ資生堂社員が抱いた願い。資生堂は1987年から、点字による美容情報の提供を通じて、その願いに応えはじめました。そして2002年11月、資生堂のホームページ上で音声読み上げソフトを対応させた美容情報ページ「リスナーズカフェ」を開設しました。文字の大きさなどにも配慮して、高齢者の方にも読みやすいように設計しています。「美しくなりたい」は、すべての女性に共通した願い。その願いに応えるために、資生堂ができるすべてのことにチャレンジし続けます。



[www.shiseido.co.jp/listener](http://www.shiseido.co.jp/listener)

■お問い合わせ先 (株)資生堂 お客さまセンター 0120-81-4710

SHISEIDO

ITからオフィスを想像できる提案  
赤えんぴつ45,000点、カタログ通販11,000点で豊富な品揃え  
OA情報機器・オフィスプランニングパートナー  
一般建設業許可 長野県知事許可・(般-13)第018079号

株式会社 小塚

本社 / 〒399-4431 長野県伊那市西春近2471番地  
駒ヶ根営業所 / 〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂16582の7

TEL (0265) 78-2435 FAX (0265) 78-9521  
TEL (0265) 81-7148 FAX (0265) 81-7166



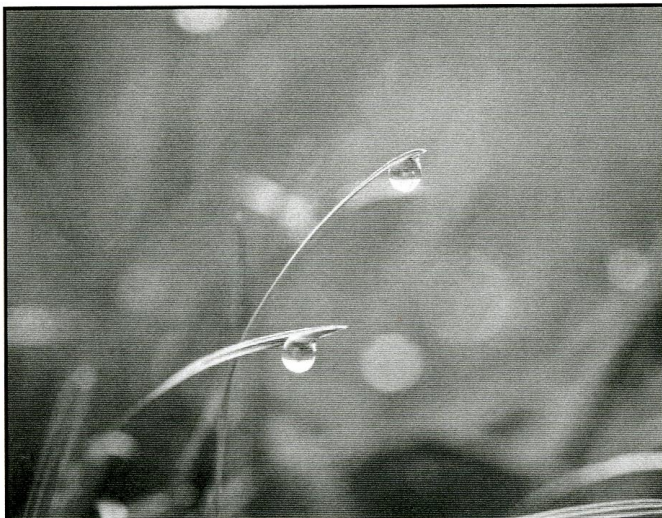
TEL (0265) 73-8255  
FAX (0265) 73-8281  
☎ (0120) 78-2435

祝  
国際補助犬パートナーズ会議  
in ユニバーサルシティ松本

**(社) 長野県獣医師会 松筑支部**

支部長 土屋 久  
副支部長 古畑武臣  
副支部長 中田基家

TEL・FAX 0263 48 2510



人と命、心の未来へ。



研 岡野薬品株式会社

本社／長野県松本市本庄1-5-14 TEL0263-33-3330代

私たちは、  
国際補助犬パートナーズ会議を  
応援しています



伊那ロータリークラブ

長野県伊那市大字伊那部 4288 Tel:0265-72-0077

伊那中央ロータリークラブ

長野県伊那市大字伊那部 4288 Tel:0265-76-5858

過去・現在・未来…

「健康」は人類にとって常に大きなテーマです。  
キッセイ薬品は「人びとの健康」のために、  
独創的な医薬品を研究開発していきます。

明日の健康を見つめる  
 **キッセイ薬品工業株式会社**

本社：〒399-8710 長野県松本市芳野19番48号  
U R L : <http://www.kissei.co.jp>



# 伊那バス株式会社

〒396-0021

長野県伊那市大字伊那5093番地

本社 TEL 0265-72-5111(代)

FAX 0265-78-4512

 心を形にするテクノロジー、あります。  
**TAKANO HeartWorks**



私どもタカノハートワークスでは、  
「高齢者、障害者の自立心を育て介護を助け、  
お互いに幸福を感じることに  
お手伝いをさせていただく」  
という気持ちのもと、  
福祉・介護事業に取り組んでおります。

**タカノ株式会社** 〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村137  
健康福祉部 TEL.0265-85-3153 FAX.0265-85-5177

Zonta international District 26 Area 4 ZONTA CLUB of MATSUMOTO



## 松本ゾンタクラブ

松本ゾンタクラブは1995年の阪神大震災のボランティア交流を機に、名古屋1ゾンタクラブをSOMに設立され、国際ゾンタNo.1522として同年12月6日に認証を受け、翌1996年4月13日ホテルブエナビスタに於いて認証状伝達式を行いました。  
台湾、韓国とともに26地区を形成する日本のエリア4に属し、甲信地域では唯一のゾンタクラブとして33番目に誕生したことになります。以来、国際奉仕、地域奉仕、文化活動に力を尽すなかで多くの方々のご理解をいただいております。



## 国際ソロプチミスト 松本

国際ソロプチミストは、  
管理職、専門職に就いて  
いる女性の世界的組織で、  
人権と女性の地位を高め  
る奉仕活動をしています。

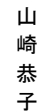
☀️天野めぐみ ☀️☀️大月里美 ☀️☀️岡村解子 ☀️



女性の体と健康、そして環境を考える…



**<Pay It Forward ~ハイフォワード~>**

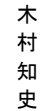


「私達は布ナプキンを推進しています。  
――勉強会開催予定！――」

**・仲間大募集!!**

問合せ先：山崎恭子 [yamazmk@ybb.ne.jp](mailto:yamazmk@ybb.ne.jp)

☀️柳沢留美子 ☀️☀️横内美和 ☀️☀️北山理恵子 ☀️



〒390-0833  
松本市双葉4-16  
松本市総合  
社会福祉センター  
1F

松本市障害者自立支援センター  
ぴあねっと21  
Tel 0263-27-7211 fax 0263-29-5020  
HP <http://www.avis.ne.jp/~pianet21>  
Email [pianet21@avis.ne.jp](mailto:pianet21@avis.ne.jp)

## 盲導犬がもっと働きやすい 街をめざして

ありがとう！ハーネス基金は盲導犬・引退犬の  
健康管理と疾病治療を支援しています。



長野県ハーネスの会  
事務局：松本市大字大村492-3  
0263-46-9611 (原 哲夫)

祝 国際補助犬パートナーズ会議

**松本市  
聴覚障害者  
福祉協会**

事務局 松本市里山辺1251-5  
FAX: 0263-35-8042

あなたの夢をカタチにします

低価格でクリエイティブな  
仕事を目指しています。

名刺、垂れ幕、ポスター、チラシ  
葉書など作成しています。  
パソコンを使って出来ることなら  
何でも！ご相談ください。

障害者共同作業所  
夢トライ工房  
松本市清水2-11-45  
TEL/FAX 35-3530

愛犬と楽しく暮らしましょう

長野県動物愛護推進員  
家庭犬飼育アドバイザー

小野キミ子

〒399-0001 松本市宮田 25-24  
TEL&FAX: (0263) 25-0151

～ 実行委員会に感謝 ～

◆◆◆ 厚生労働大臣指定法人 ◆◆◆

社会福祉  
法人 **日本聴導犬協会**

〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村 3200



TEL: 0265-85-4615、5290

FAX 専用: 0265-85-5088

E-mail: [inf@hearingdog.or.jp](mailto:inf@hearingdog.or.jp)

<http://www.hearingdog.or.jp>

祝 国際補助犬パートナーズ会議  
in ユニバーサルシティ松本



松本ロータリークラブ  
松本東ロータリークラブ  
松本南ロータリークラブ  
松本西南ロータリークラブ  
松本空港ロータリークラブ  
松本城ロータリークラブ

# 国際補助犬パートナーズ会議 in ユニバーサルシティ松本



## 役員・実行委員会



名誉会長	田中康夫	長野県知事	■ 超党派議員支援団 ■		
会長	菅谷昭	松本市長	支援団委員長	村井仁	衆議院議員(自由民主党)
副会長	田中誠二	松本商工会議所会頭	委員	下条みつ	衆議院議員(民主党)
"	山田昭義	DPI 日本会議前議長	"	風間ひさし	参議院議員(公明党)
顧問	竹淵公章	松本市教育長			
"	川崎和廣	(福)信濃友愛会 四賀アイアイ理事長	実行委員	原哲夫	長野県ハーネスの会会長
"	青山織人	(学)未来学舎常任理事	"	金井隆	松本市聴覚障害者福祉協会会長
"	全田浩	信州大学名誉教授	"	前野弘美	「ふれっ手」所長
"	小林美智子	県立長崎県シーボルト大学教授	"	加藤正	松本市身体障害者自立支援センター
"	柴内裕子	赤坂動物病院院長	"	山崎恭子	ペイフォワード
"	藤井證	(特)日本アシスタンス・ドッグ支援協会理事長	"	田中安子	長野県ハーネスの会
実行委員長	瀧澤知峰	松本電気鉄道(株)専務取締役	"	太田和実	移動サポート天・地・愛
副実行委員長	二木伸次	(社)松本青年会議所理事長	"	橋本和子	
"	土屋久	長野県獣医師会松筑支部支部長	"	川上都子	(福)信濃友愛会四賀アイ・アイ
"	二村清	松本ろう学校校長	"	桑原美由紀	精神障害者の家アトリエてくてく(STS)
"	小湊眞	松本盲学校校長	"	小笠原恵美子	(特)長野サマライズセンター
"	小林文宗	松本保健所所長	"	小野キミ子	長野県動物愛護推進員
"	小原仁	松本市社会福祉協議会会長	"	マーク・ブライアー	
"	内ヶ嶋光博	松本市内旅館組合連合会会長	"	辻正明	セイコーエプソン労働組合
"	澤田宗雄	松本旅料飲食団体協議会議長	"	下島典子	生活クラブ
"	宮下武長	日本司厨士会松本支部会長	"	荻原真理	(福)日本聴導犬協会ボランティア
"	井出萬成	(福)長野県聴覚障害者協会理事長	"	松下真理子	"
"	櫻井俊二	(福)長野県視覚障害者協会理事長	"	山田邦子	"
"	池田良之	アステップ信州代表取締役社長	"	高橋文子	"
"	土屋忠史	松本食堂組合副理事長	"	安部宏美	"
"	長岡由希子	全日本補助犬パートナーの会&全日本補助犬育成の会副議長	"	MAYUMI	(福)日本聴導犬協会理事
"	岸本淑子	全日本聴導犬ユーザーの会メンバー	"	矢澤昌子	(福)日本聴導犬協会スタッフ
"	小木曾義典	あけぼの歯科医院院長	"	林俊子	"
"	降幡和彦	松本市障害者自立支援センター所長	"	松下恵美子	"
総合コーディネーター	有馬もと	(福)日本聴導犬協会会長、国際アシスタンスドッグ協会理事	"		
事務局長	浅田修吉	レストランどんぐり社長	"		
"	MAYUMI	(福)日本聴導犬協会理事	"		
事務局スタッフ	松下恵美子	(福)日本聴導犬協会			(敬称略、順不同)(無断転載コピー厳禁)
"	矢澤昌子	"			
"	林俊子	"			

この会議のお問合せは、国際補助犬パートナーズ会議事務局：厚生労働大臣指定法人 社会福祉法人日本聴導犬協会

〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村 3200 TEL:0265-85-4615,5290 FAX:0265-85-5088 E-mail:inf@hearingdog.or.jp HP:www.hearingdog.or.jp

# EPSON

ミライ。ミテル。

power of Imaging.

環境を守ることは、未来を育てること。  
美しいイメージングが本当の力を持つためには、  
美しい地球へのビジョンがなければいけないと思います。  
だからエプソンは環境への配慮も品質の一部としてとらえ、  
製品をつくる時、使う時、使った後、すべてにおいて、  
安全、省エネルギー、省資源の実現を目指しています。

セイコーエプソン株式会社  
〒392-8502 長野県諏訪市大和3-3-5

<http://www.epson.co.jp>



セイコーエプソンは全世界の主要69拠点全てにおいて  
環境管理の国際規格であるISO14001認証を取得しました。



エプソンミュージアム美の巨人たち  
テレビ東京系列 毎週土曜日夜10時 /  
BSジャパン 毎週日曜日夜11時より放送中